

## 2009年2月期 中間決算説明会

## 経営成績について

	連結			
	実績	前年同期比	公表数値	公表差
取扱高	1兆4,870億円	111%	1兆4,600億円	270億円
営業収益	885億円	98%	870億円	15億円
営業利益	153億円	86%	148億円	5億円
経常利益	155億円	87%	148億円	7億円
中間純利益	70億円	72%	69億円	1億円

	単独			
	実績	前年同期比	公表数値	公表差
取扱高	1兆3,124億円	113%	1兆3,000億円	124億円
営業収益	584億円	96%	587億円	△2億円
営業利益	87億円	76%	93億円	△5億円
経常利益	100億円	79%	104億円	△4億円
中間純利益	57億円	72%	65億円	△7億円

## 財政状態について

- 営業貸付金は期首と比べて12億円減少するも、リボ残高の増加により割賦売掛金が436億円増加

	連結		単独	
	実績	期首増減	実績	期首増減
総資産	9,083億円	463億円	6,917億円	380億円
営業債権残高	8,440億円	423億円	6,479億円	366億円
割賦売掛金	3,309億円	436億円	2,570億円 ※(919億円)	390億円 (105億円)
営業貸付金	5,131億円	△12億円	3,909億円	△24億円
純資産	1,883億円	49億円	1,451億円	25億円

※( ) は、ショッピングリボ・分割払い残高

## 配当金の状況

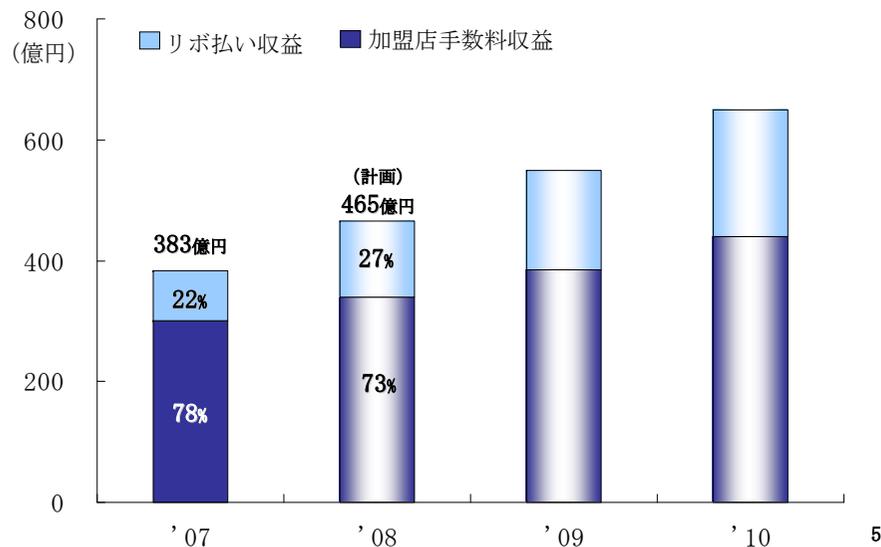
- 中間配当は15円を実施、期末配当は25円を予想

	2008年2月期 配当	2009年2月期 配当予想
中間配当金	15円	15円
期末配当金	25円	(予想) 25円
年間配当金	40円	(予想) 40円

中間配当性向	24.0%	33.2%
年間配当性向	35.5%	40.0%

## カードショッピングの収益構成比(単独)

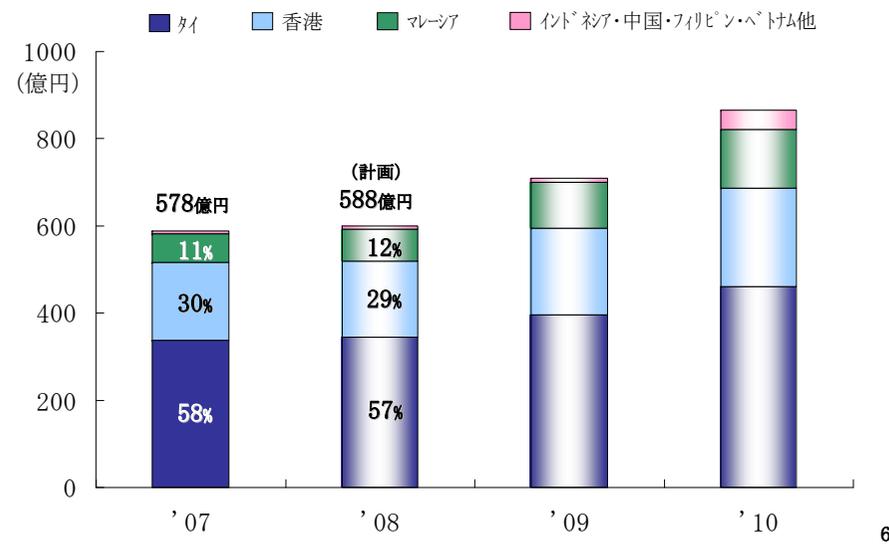
■ 当中間期の構成比は、加盟店手数料収益76%、リボ払い収益24%



5

## 海外事業の国別収益内訳

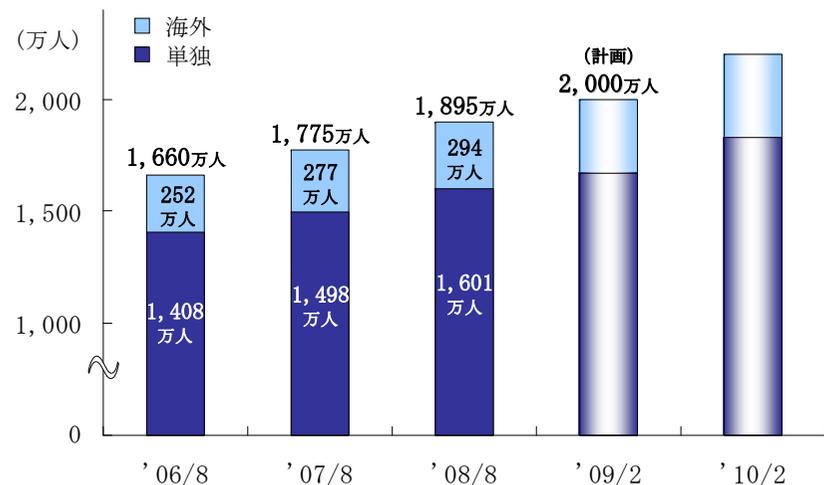
■ 当中間期の構成比は、タイ57%、香港29%、マレーシア12%、その他2%



6

## 有効会員数の推移 (連結)

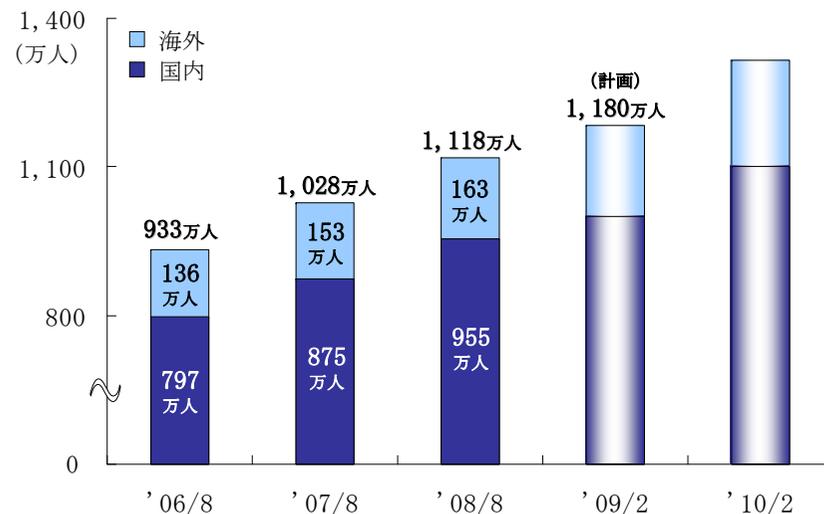
■ 連結1,895万人(期首比56万人増)・単独1,601万人(期首比48万人増)に拡大、今期末には連結2,000万人を計画



7

## 稼働会員数の推移 (連結)

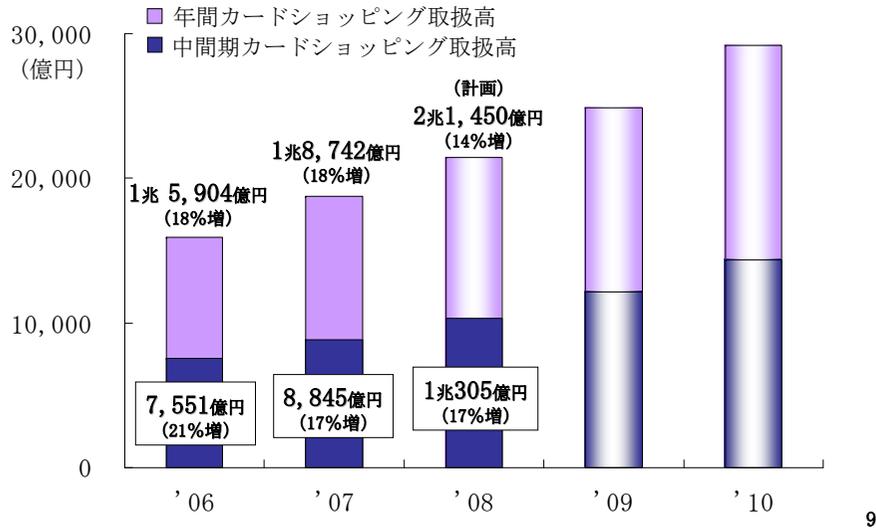
■ 連結稼働会員数1,118万人(前期比90万人増)、単独稼働会員数は955万人(前期比80万人増)に拡大



8

## カードショッピング取扱高推移(連結) イオンクレジットサービス株式会社

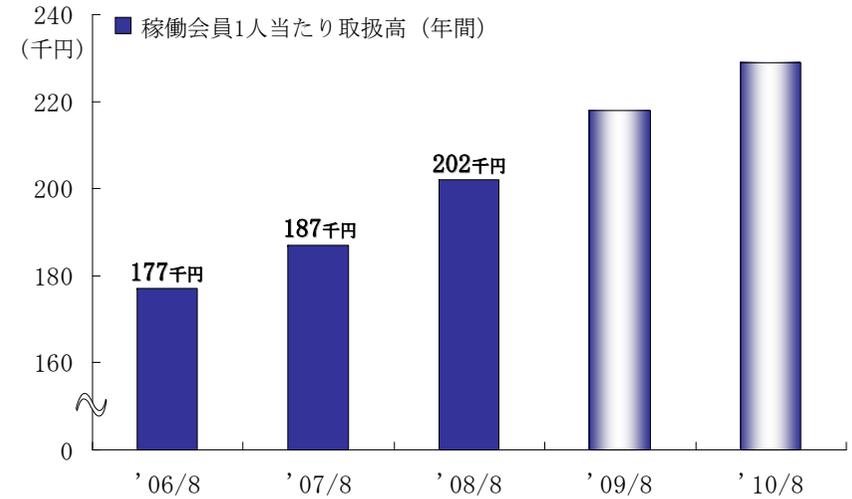
■ 連結取扱高は1兆305億円(17%増)、単独は9,899億円(17%増)と順調に拡大



9

## 稼働会員1人当たりのショッピング取扱高(単独) イオンクレジットサービス株式会社

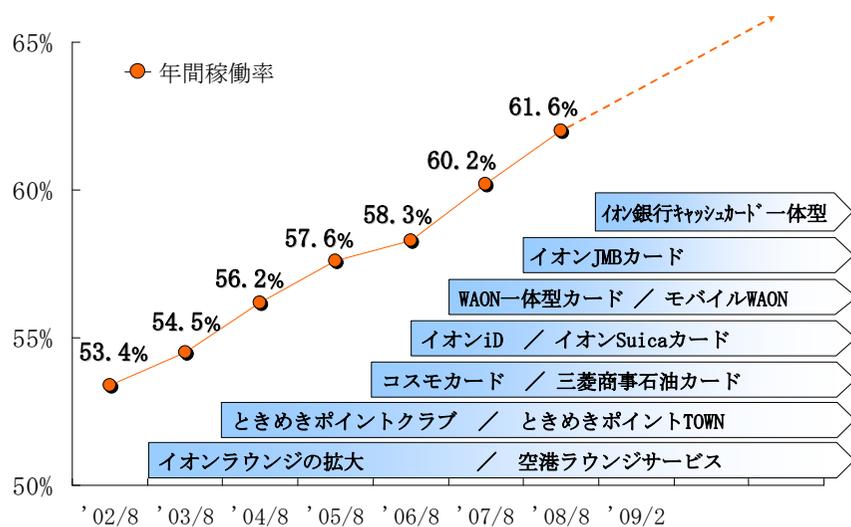
■ 稼働会員1人当たりの取扱高は前年同期より15千円上昇し、202千円に拡大



10

## 年間稼働率の推移(単独) イオンクレジットサービス株式会社

■ 年間稼働率は前年同期比1.4ポイント上昇の61.6%に向上



11

## 電子マネー一体型カードの効果 イオンクレジットサービス株式会社

■ 電子マネー一体型カード導入により、稼働率、男性比率、首都圏比率が向上

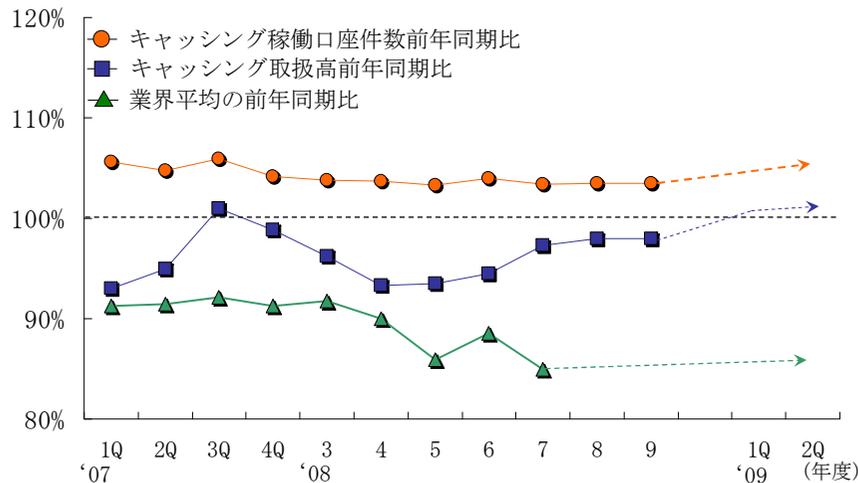
		イオンカード <sup>®</sup> WAON一体型	モバイルWAON	イオンSuicaカード <sup>®</sup>	イオンJMBカード <sup>®</sup> WAON一体型	イオンiD
利用	年間稼働率	65%	79%	73%	72%	70%
	男性比率	24%	53%	42%	42%	39%
属性	首都圏比率	17%	23%	68%	27%	23%

※利用に関しては2008年度中間期の数値、属性に関しては2008年8月度終了時点数値。

12

## カードキャッシング取扱高推移

■ 新規利用会員の増加により、業界平均を上回る水準

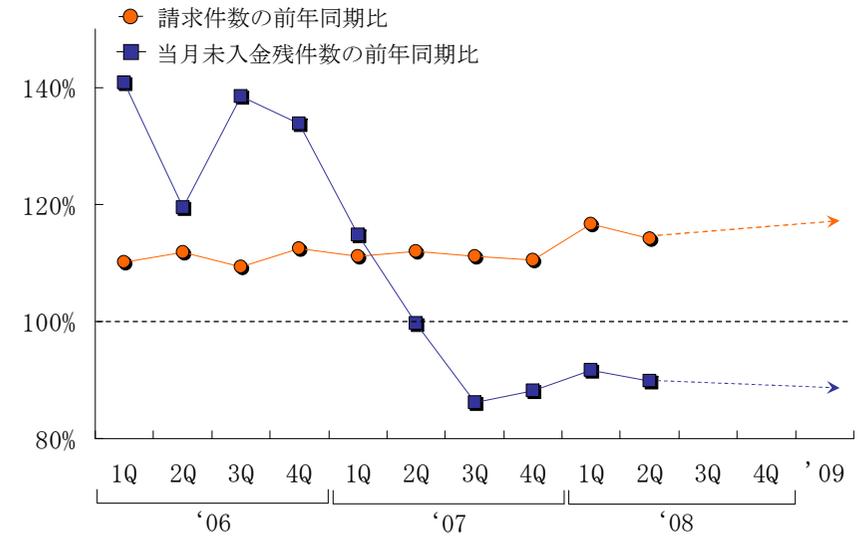


※業界平均出所：日本クレジット産業協会

13

## 審査・回収体制の充実による効果

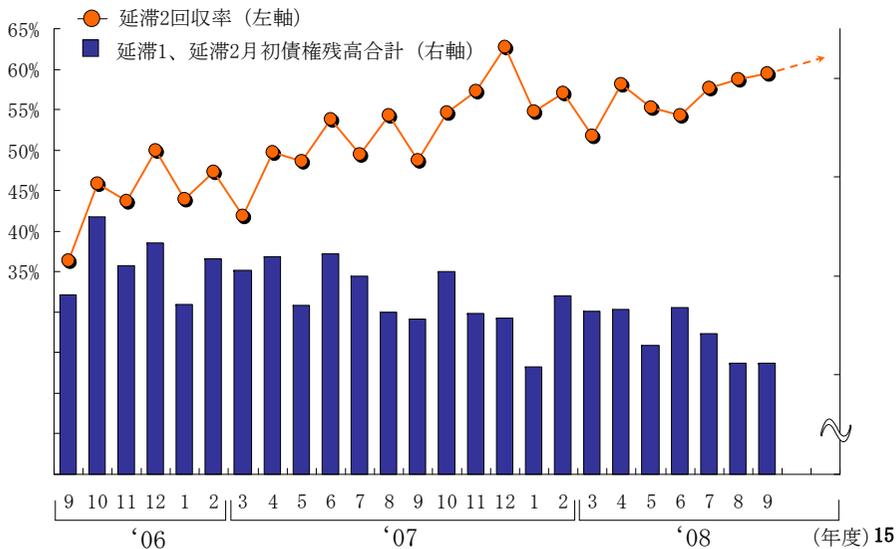
■ 請求件数は上期平均で15%増加、当月未入金残件数は前期比90%に改善



14

## 延滞回収率の推移

■ 延滞2回収率は前年より7%改善、延滞債権の月初残高も減少



(年度) 15

## 貸倒引当金の状況

■ 貸倒引当金の見積もり方法変更により期首差額を65億円特別損失に計上

	2008年2月期	2008年8月期		2008年8月期
期首貸倒引当金	※ 349億円	426億円	個人破産	全額償却
期中引当繰入額	268億円	※ 168億円	回収懸念	411億円
貸倒償却額	191億円	108億円	一般引当金	76億円
期末貸倒引当金	426億円	487億円	合計	487億円
期末貸倒引当率	6.2 %	6.8 %		

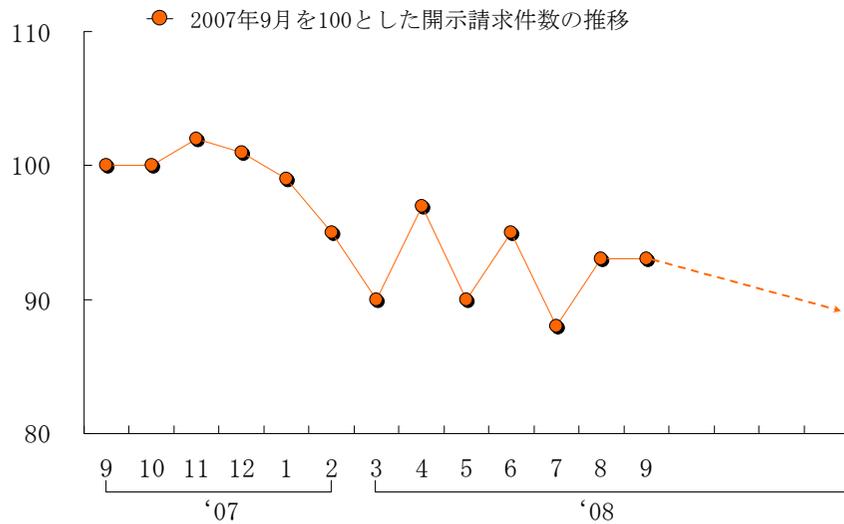
※2008年8月期の期中引当繰入額には特別損失を含んでおります。

※2008年2月期の期首貸倒引当金はACSファイナンスより引き継いだ貸倒引当金残高を含んでおります。

16

## 利息返還開示請求の状況

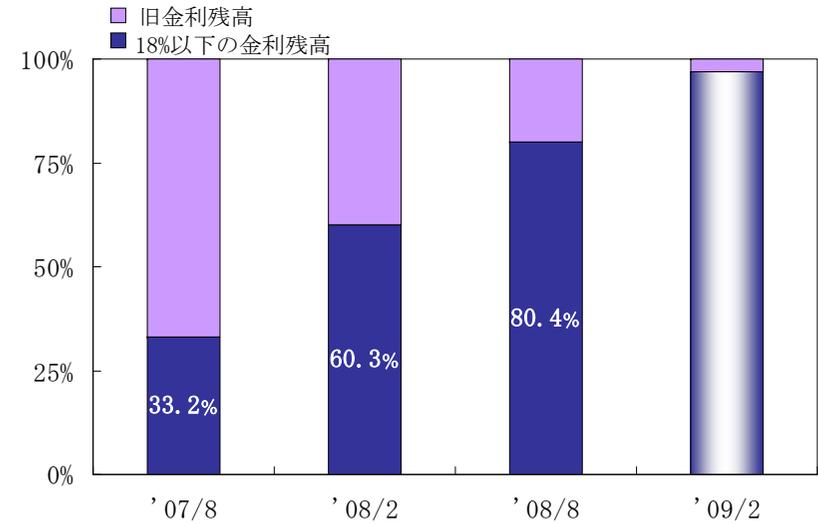
- 開示請求件数は昨年の下期以降、減少傾向



※1月、8月は季節要因を加味しております。

## 上限金利への対応

- 本年度中にはほぼ18%以下の金利に移行。利息返還リスクの減少



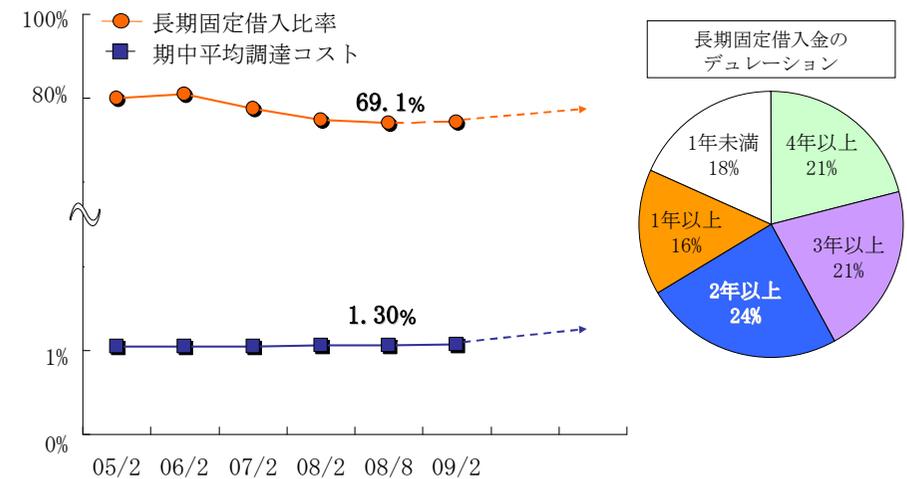
## 利息返還損失引当金の状況

- 開示請求件数の減少、金利18%以下への残高以降の進捗により、利息返還は、減少の見込み

	2007年上期	2007年下期	2008年上期
期首利息返還損失引当金	69億円	69億円	85億円
利息返還損失引当金繰入額	21億円	44億円	26億円
キャッシュアウト・元本充当額	△20億円	△29億円	△31億円
期末利息返還損失引当金	69億円	85億円	80億円

## 資金調達状況

- 当中間期の長期固定比率は69%、平均調達コストは1.30%
- 長期固定借入金のデュレーションは2年10ヶ月、調達リスクの軽減



# 2008年度 下期重点実施事項

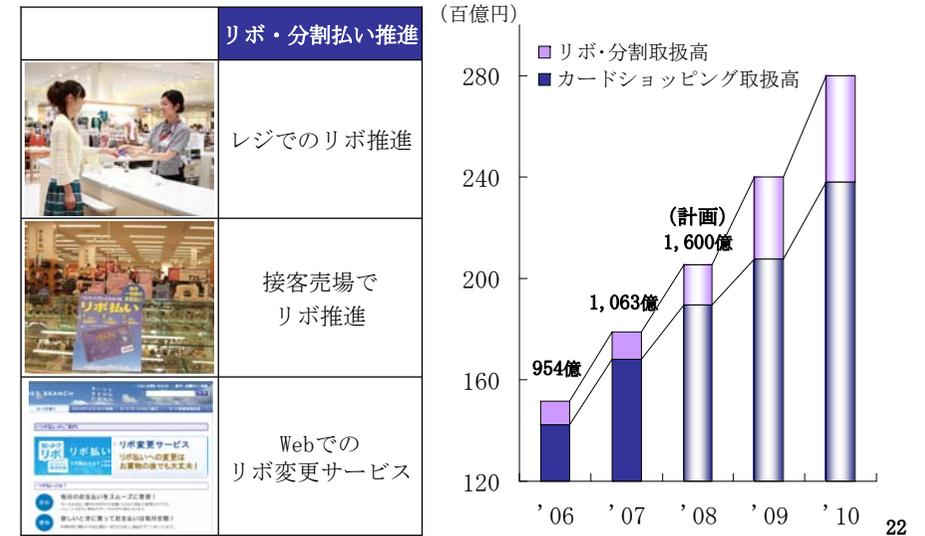
## I. クレジットカード事業の競争力強化

1. リボルビング・分割払いの拡大
2. ゴールドカードの拡大
3. 貸金業法への対応
4. 次世代システムの開発状況



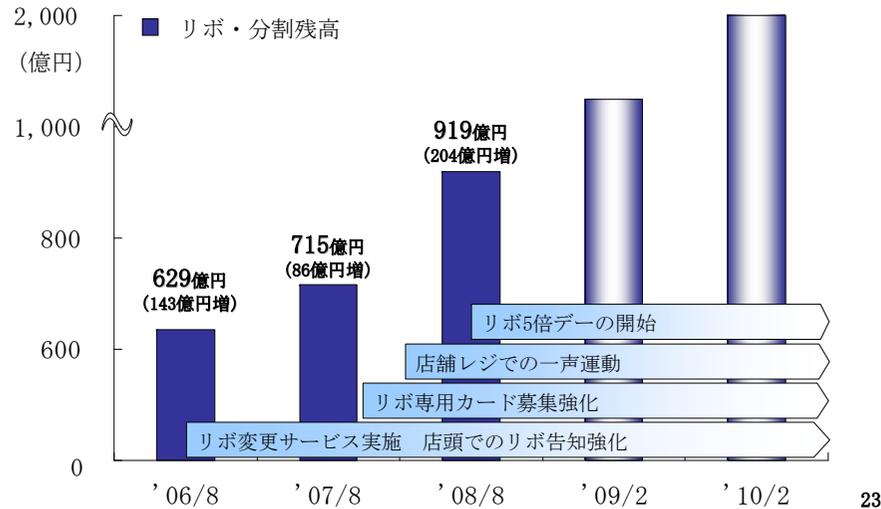
## 1-①. リボルビング・分割払いの拡大 イオンクレジットサービス株式会社

■ グループ一体となりレジや、接客売場でリボ払いを推進することにより、カードショッピング取扱高比率7.8%を計画（2008年度）



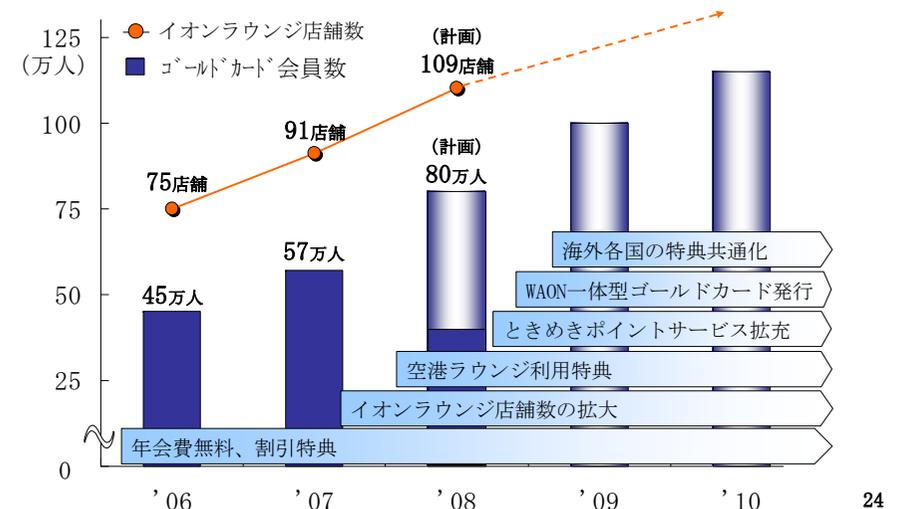
## 1-②. リボルビング・分割払いの拡大 イオンクレジットサービス株式会社

■ 新たなリボ・分割払い利用会員の拡大に向けた取り組みを強化



## 2. ゴールドカードの拡大 イオンクレジットサービス株式会社

- 当中間期のゴールドカード会員数は63万人（前年同期より11万人増）
- イオンラウンジ店舗数の拡大等、特典の充実により、メインカード化の推進



### 3. 貸金業法への対応

スケジュール	主な施行内容	当社の対応
第2条施行 07/12/19施行	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸付書面交付</li> <li>年収証明取得(自主規制)</li> </ul>	対応済
第3条施行 09/6/18迄に施行	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸金業務取扱主任者制度</li> <li>指定信用情報機関制度</li> </ul>	08年下期より社内研修開始 09年上期までにシステム開発完了
第4条施行 10/6/18迄に施行	<ul style="list-style-type: none"> <li>上限金利の引下げ</li> <li>総量規制の開始</li> </ul>	対応済 09年上期までにシステム開発完了

25

## II. 新たな収益源の育成

1. 電子マネー事業の拡大
2. 銀行代理業の推進
3. プロセッシング事業の拡大
4. アクワイアリング事業の拡大
5. ネット事業の拡大
6. イオン保険サービスの取り組み
7. ACS債権管理回収の取り組み

### 4. 次世代システムの対応状況

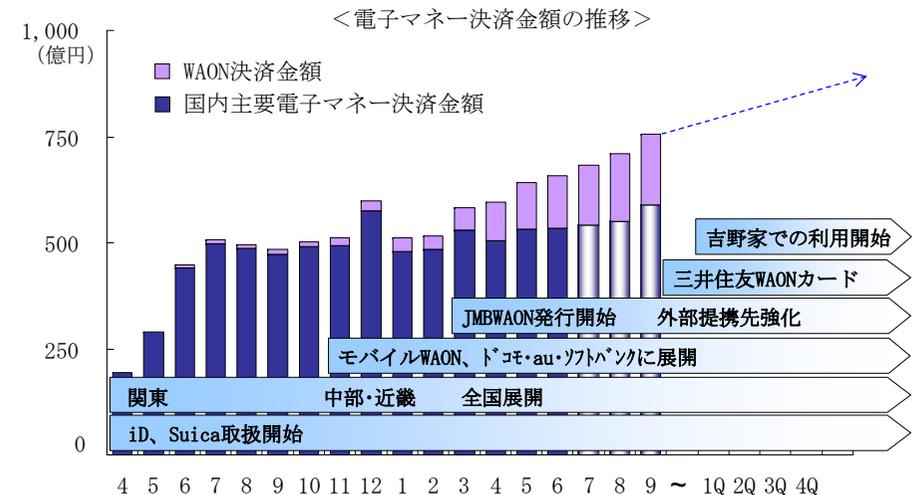
□ 対応済 □ 着手中 □ 対応予定

	2008年度上期	2008年度下期	2009年度	2010年度
勘定系	<ul style="list-style-type: none"> <li>マンリーステートメント</li> <li>新債権管理システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定信用情報機関との接続</li> <li>ボリューム対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総量規制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーソリシステム</li> <li>イシューシステム</li> </ul>
会員サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>加盟店支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求書Web照会</li> <li>ATM入金</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンタクトセンター</li> <li>審査・カード発行短縮化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>請求書の分散発行</li> </ul>
情報系	<ul style="list-style-type: none"> <li>WAONの顧客情報管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループCRM</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名寄せ対応総合顧客システム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ顧客データ一元管理</li> </ul>

26

### 1-①. 電子マネー事業の拡大

■ 国内の電子マネー決済金額に占めるWAONの割合が月を追うごとに拡大



※出所：日本銀行決済機構より。2008年7月、8月は当社推定値

28

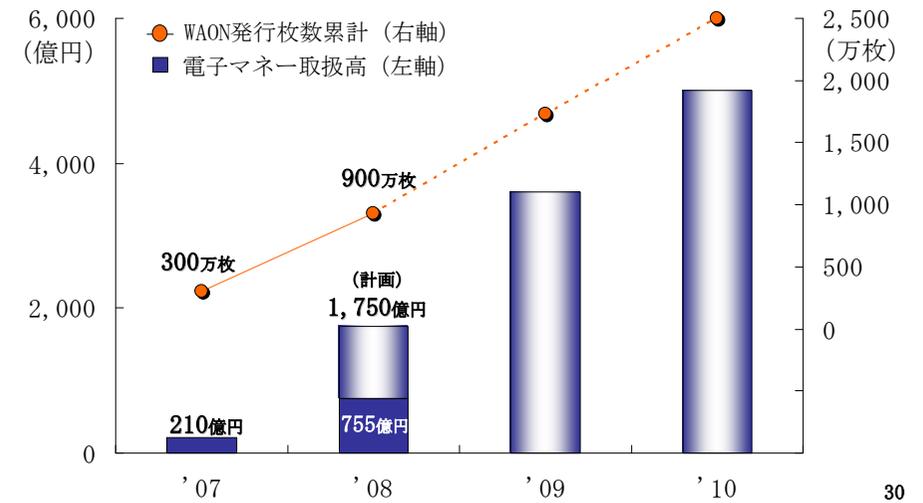
## 1-②. 電子マネー事業の拡大

■ 様々な生活シーンで電子マネーの利用を推進



## 1-③. 電子マネー事業の拡大

■ 今期末でWAONは発行枚数累計900万枚を計画



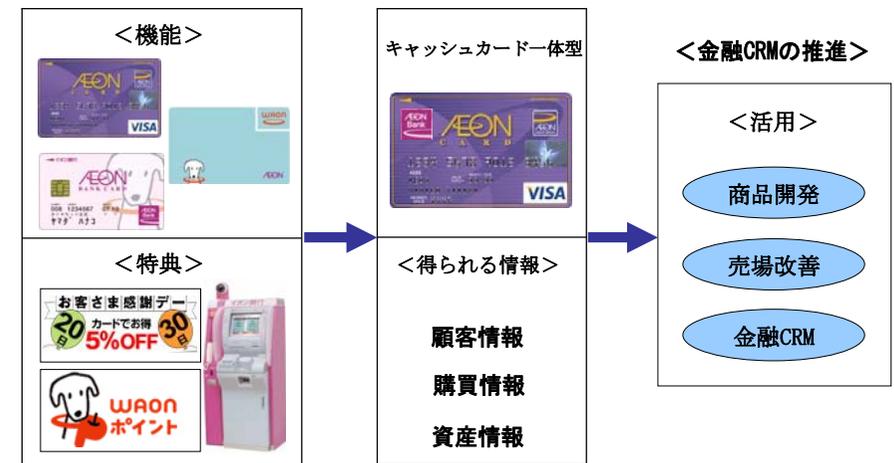
## 2-①. 銀行代理業の推進

■ 口座募集に加え、住宅ローン・投資信託の取次ぎ強化などイオン銀行との協業加速

取り組み事項			
	イオンカード募集		投資信託
	銀行口座募集		住宅ローン
	信用保証		ATMの共同利用

## 2-②. イオン・キャッシュカード一体型の発行

■ 機能と特典の集約により募集効率の向上と金融CRMの推進



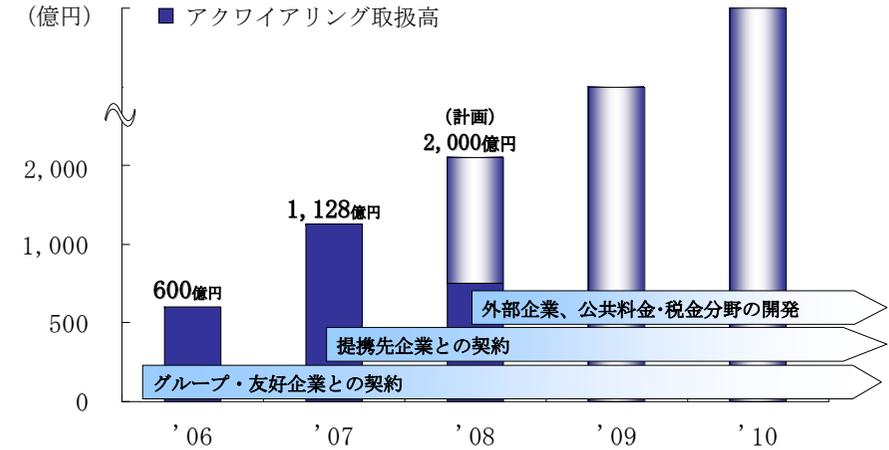
### 3. プロセッシング事業の拡大

- イオン銀行、イオン保険サービスのプロセッシング業務を受託し、事業基盤を確立

当社のノウハウを活用				
DM送付	コール・債権管理センター	文書保管	情報入力	カード発券
				
大口割引適用によるローコストオペレーション	インバウンド及びアウトバウンド	電子データ化	申込書等の顧客情報登録	キャッシュカード発券に対応
実施済	9月実施	10月実施	11月実施	11月実施

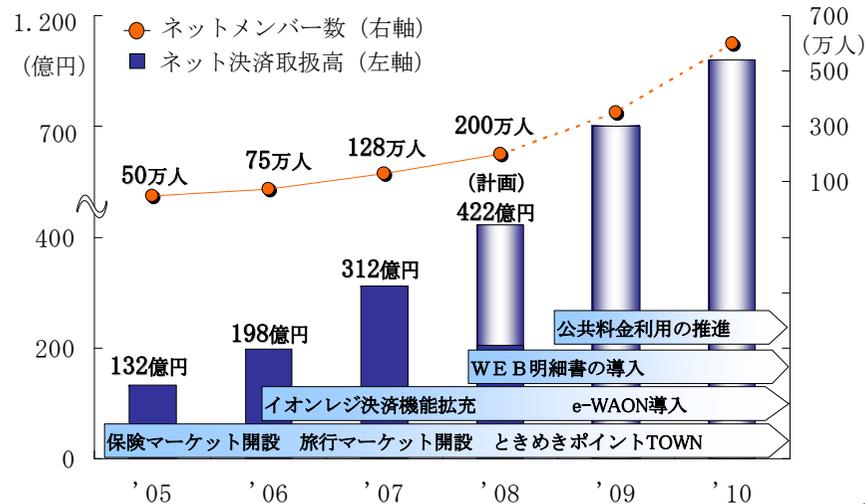
### 4. アクワイアリング事業の拡大

- 当中間期の取扱高は816億円（前年同期比79%増）
- 友好企業、提携企業に加え、外部企業に展開を強化



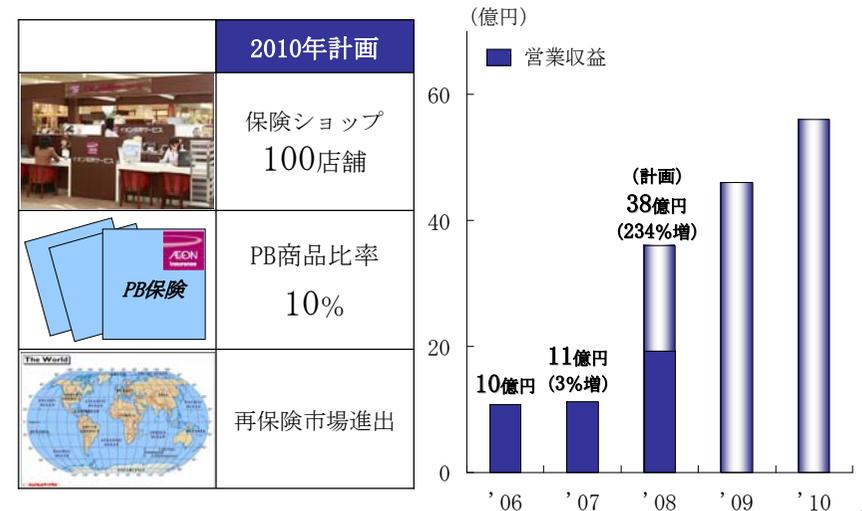
### 5. ネット事業の拡大

- 当中間期の取扱高は192億円（前年同期比32%増）
- ネットメンバー情報を活用し、Web明細やCRMメール配信による利用促進



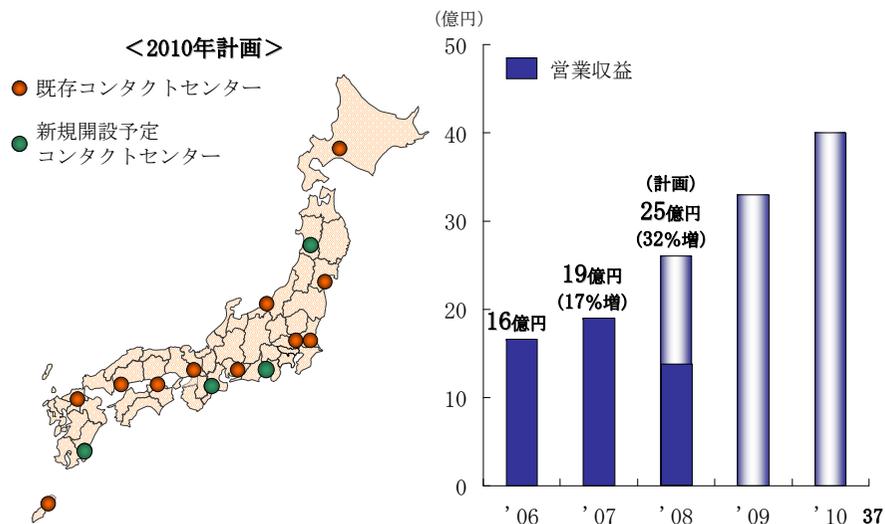
### 6. イオン保険サービスの取り組み

- 当中間期の営業収益は18億1100万円（前年同期比223.6%増）
- 保険ショップ、PB商品販売を強化、再保険市場に進出



## 7. ACS債権管理回収の取り組み

- 当中間期の営業収益は11億28百万円（前年同期比26.7%増）
- 営業拠点、回収受託社数の拡大を図り、業容を拡大



## Ⅲ. 海外事業の拡大

1. 海外上場子会社の取り組み
2. 中国
3. 台湾
4. インドネシア
5. ベトナム
6. アジアプレゼンスの拡大

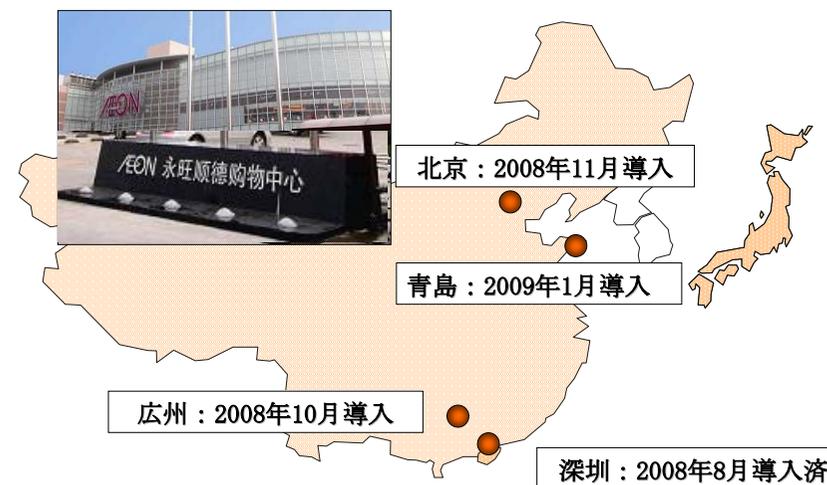
## 1. 海外上場子会社の取り組み

- 上場3社が新たな国での展開をサポート

上期実績	香港	タイ	マレーシア
営業収益	615百万香港ドル (前期比 4%増)	5,034百万バーツ (前期比13%増)	106百万リンギット (前期比22%増)
経常利益	176百万香港ドル (前期比10%増)	896百万バーツ (前期比 8%増)	29百万リンギット (前期比67%増)
新たな国への展開計画	中国でのハウスカード発行サポート	ベトナムにおける事業拡大	インド駐在員事務所開設

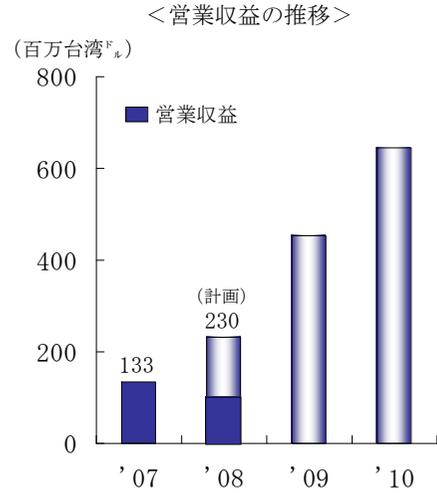
## 2. 中国における事業

- イオンハウスカードの保証・プロセッシングの業務受託開始（下期獲得5万人を計画）



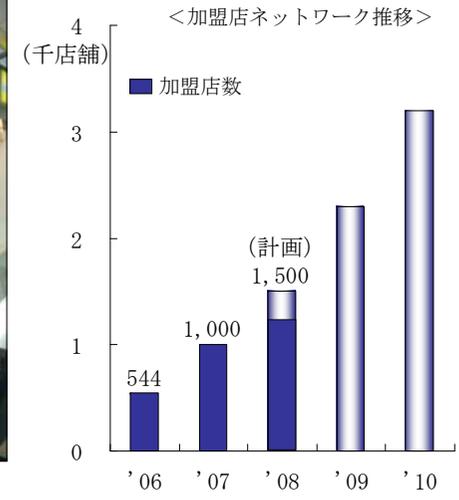
### 3. 台湾における事業

- 当中間期の営業収益は87百万台湾ドル（前年同期比25%増）
- 下期は台湾大手小売チェーンとの提携カード発行を計画



### 4. インドネシアにおける事業

- ハイヤーパーチェス加盟店の開発が順調に推移し、取扱高は前年同期比76%増
- 下期は、大型加盟店を中心に開発を行い、加盟店数を1,500店舗に拡大



### 5. ベトナムでの事業開始

- 加盟店開発強化により割賦販売事業の営業基盤確立



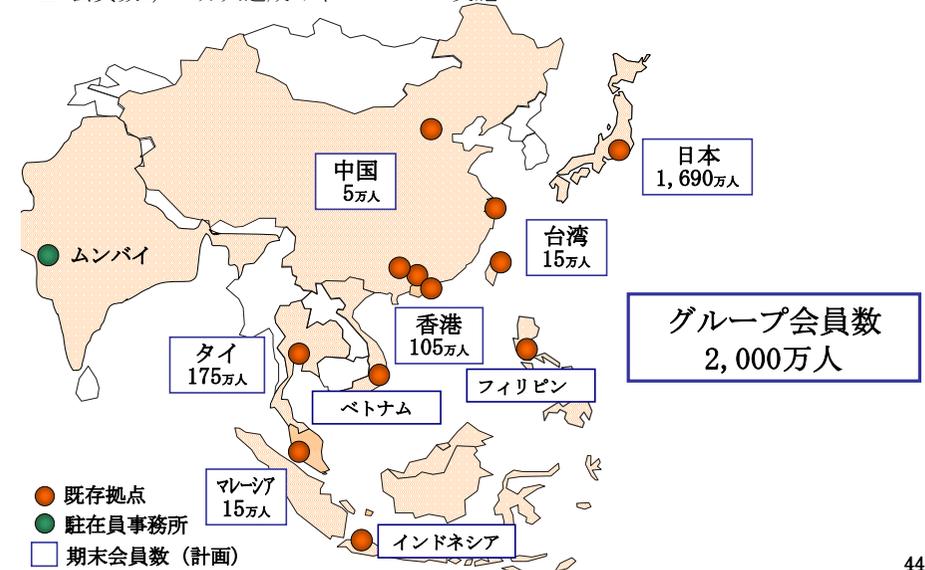
＜ACS TRADING VIETNAM CO., LTD.＞



＜ホーチミン市＞

### 6. アジアプレゼンスの拡大

- 会員数2,000万人達成キャンペーンの実施



	連結		単独	
	予想	前期比	予想	前期比
取扱高	3兆1,100億円	113%	2兆7,600億円	115%
営業収益	1,858億円	103%	1,255億円	103%
営業利益	330億円	100%	200億円	102%
経常利益	331億円	100%	223億円	100%
当期純利益	157億円	89%	137億円	97%

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確定要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。